

○ 本校の概要

大田区学習効果測定の結果を見ると教科・学年によってばらつきが見られる。教科ごとに基礎・活用で分けると、国語・算数で、ともに基礎も活用も目標値を上回っていた。学年で見ると、4年は、算数では標準スコアを超えているが、他教科では下回っていた。特に理科が低かった。5年は、すべての教科において標準スコアを超えた。特に理科が良かった。6年は、逆にすべての教科において標準スコアを下回った。特に社会・理科が低かった。領域別で見ると、社会・理科の知識・理解が低かった。これは、国語・算数の学習の基礎となる教科を研究主題として長年取り組んできた結果と言える。本校でも、この施策に従って算数のチェックシートを確かめプリント、補習教室を実施しているが、これは効果的に機能していると考えられる。理科に関しては、昨年度の「授業改善プラン」で、理科の用語を使ったノートでのまとめに取組む、知識・理解の定着をねらったが、わずかの伸びは見られたが、来月は十分ではないので引き続き重点的に取り組んでいく。また、本年度の校内研究は国語と社会、生活学習(特別支援学級)である。国語では、思考力・表現力(根拠・理由・主張)を大切に育てる。それを活かして、社会科では、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる。そのために、教職員は授業力を上げよう取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

Table with 10 columns: 大項目, 目標, 取組内容, 取組指標, 取組評価, 目標に対する成果指標, 成果評価, これまでの取組及び今後の改善策, 学校関係者記入欄コメント. Rows include categories like 学力向上, 豊かな心を育む, 体力向上, 教育環境向上, 家庭・地域の教育力向上, and オリ・パラ.

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。